

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵 1ユニット		
所在地	愛知県岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	平成23年11月16日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年12月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた家で、家族と生活をしている気持ちを持っていただけるようにお世話をさせて頂いています。介護計画、見直し、検討を常にするように心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の来訪が多く、家族と職員の関係も良好である。ホームの行事にも年々参加の家族が増えてきている。日々の散歩や季節ごとの外出に加え、家族の協力のもと普段行けない外出や外食などの支援にも努めている。家族会がないため、ブログを立ち上げ、いつでも家族が利用者の日々の生活状況が見える支援を行っており、家族から好評である。社長が毎日の業務日誌を見て、コメントを書き入れており、それが職員との情報の共有と信頼関係を築いている。地域の町内会長総代や民生委員の協力の下、年々地域に根付いてきており、7月にホームで地震体験講習会を行った時には、地域の人や子供達の参加があった。毎年、一歩ずつ進化をしていけるようにと頑張っているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもう一つの家) 新しく入居された方に少しでも早く慣れて頂ける様に、馴れ親しんできた生活と残された残存機能を生かした生活をして頂いています。	職員会議で理念に立ち返り、その都度話し合っ て職員間で共有している。理念に沿って、家庭により近いケアをするよう心がけており、介護計画の中にも取り入れるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年7月に地震体験講習会を行い子供会、総代、民生委員の方に参加して頂きました。 雨量が多い時など総代さんから連絡を頂く時があります。	散歩や買物に出かけたときに、近隣の人と会えば挨拶をしている。ホームで行なう夏祭りやクリスマス会には地域の人達の参加が増えてきている。	地域の学校やボランティア団体との交流の場を持てるような働きかけを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽に立ち寄って頂ける様に常に開放しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行っています。 夏祭り、クリスマス会を行い、地域の子供達、保護者、総代、民生委員に参加して頂いています。	運営推進会議に民生委員が出席することにより、地域との橋渡しとなって、双方の行事などの情報交換をもらっている。民生委員より、町内の行事予定の中にホームの行事も組み入れてもらう予定が出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様のサービス計画表を作成し解らない時は市の担当者に相談する時があります。	制度や介護のことで困ったことがあれば、市の担当に電話して聞いている。また、市の長寿課の職員や地域包括支援センターの職員も運営推進会議に出席しているので、情報の共有はできている。また、市主催のグループホーム小部会や研修には参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている勉強会で身体拘束について勉強会を行っています。日中は部屋の窓、玄関、非常口は鍵を閉めていない。 Am9:00~pm18:00 散歩に出かけたい方は、付き添い出かれます。	日中は玄関や非常口の施錠はしていない。外出する人には一緒について散歩している。スピーチロックを見つけた場合は、その場で注意することで職員に気づきができてきている。その他、身体拘束については、職員会議で話し合い周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について、普段行っているケアを見直し、朝、夕の申し送りの際にも気になる事があれば話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方は入居されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームに適した入居対象者であるか十分に検討しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時には必ず伝えて頂き改善に努めています。 家族の面会時、会話をし親しみを心がけています。	家族とは面会時に利用者の様子を直接話したり、電話で伝えているが、家族から要望や意見はあまり出ない。面会記録を作り、面会時の会話や様子をわかる範囲で書き入れ、情報収集をしてブログに掲載している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れる体制でいる事を心がけています。 半年に一度上司と面談する機会を持っています。	業務日誌で全般的な1日の振り返りを書き、それに対して社長がコメントを毎日書き入れており、情報の共有の体制ができています。職員は半年に1度自己評価を出し、上司はその自己評価に対して点数をつけて話し合い、職員のスキルアップにつなげるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回人事考課を行う向上心を持って働いてもらえる様に働きかけます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加をなるべく多くの職員が受講出来る様にしています。 十一月にホームないで「口腔ケアセミナー」の研修を行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度のグループホーム小部会に参加し同業者との交流会を通してサービスの質の向上、人材育成に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれまでの生活状況を把握し、本人にとってその人らしい暮らしを支えられる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気がかりな事や要望などある場合、職員に伝えたり、相談出来る様に面会時に声かけを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に現在利用されているサービスに訪問し様子を聞き家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居して頂きます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用様が出来る事、出来そうな事はあまり手や口を出さず利用様のペースを保ちながら見守り、一緒に行う様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知り合いの方の訪問が気軽に出来る様に常に訪問時は気分良く過ぎて頂く様な雰囲気心を心がけています。 (挨拶)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に余り負担にならない程度に外出、外泊、外食等が出来る様に働きかけています。	犬の散歩の途中で利用者の娘さんがホームに立ち寄り、利用者と一緒に散歩に行く人もいる。家族の協力の下、お墓参りや外食、ドライブに行き今までの関係が途切れないようにしている。また、近くのスーパーへ食材の買物や外食に行くようになり、店長とも顔なじみになり、新しい馴染みの場所も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士フロアで会話をされています。 時々スタッフも一緒に話しの輪に入っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません。 今後の課題として検討します。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様一人ひとりと会話をし何をしたいか日々の行動、表情を見極め、把握出来る様に努めています。	入居前の生活を家族からの情報提供を受け、利用者一人ひとりの特技や思いを利用者との会話を通して把握している。意思疎通が困難な人には笑顔をやさしく接し、相手の思いを察し、身体の不調にもすばやく対応できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に生活環境などを本人や家族に出来る限り利用者本位の生活をして頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の言葉がけ行動はゆっくりする様にして利用者様のペースに合わせる様に心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し要望の把握し介護計画を作成し支援内容を共有出来る様にしています。	職員は月3回ほどに分けて利用者の一人ひとりのカンファレンスを行い、それを踏まえて3ヶ月ごとに介護計画を見直している。随時必要があればその都度見直して、それに対して評価しケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取、健康チェック等を記録し疑問点を会議で話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況を家族に知って頂ける様に毎日ブログを行っています。 遠方の家族の方に喜んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夜間災害が起きてしまった場合近隣、町内の災害支援の方達に連絡を取り協力をして頂ける事になっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化や、異状が起きた場合気軽に相談出来る協力医を確保しています。 (葵セントラル病院 田口先生) 月に一回往診有	月に1回は内科、脳神経科の協力医の往診があり整形外科、皮膚科の協力医とも情報提供を通して連携している。緊急時や夜間にも協力医に対応してもらえ安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化が起きた場合協力医との確実な連携を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為話し合いや協力を医療機関と行っています。 職員が週に一度見舞い情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化された場合でもグループホームで行える支援を出来る限り行っています。	入居時の契約で重度化した場合、他の施設となっているが、協力医が頻繁にホームに往診してホームでできる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間緊急時の対応についてのマニュアルを作成し周知徹底図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています。 年に二回消防訓練を行い平成二十三年は子供会の参加で地震体験の講習会を行いました。	6月に水消火器を借りて利用者と共に消防訓練を実施した。7月は地域で地震車の体験、11月は避難誘導のDVD観賞をしている。半年に1度、消火器の点検と3日分の食料と水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけは常に穏やかに接する様に周知しています。	利用者に寄り添って、人格を尊重してさりげない声かけをするように努めている。管理者は職員の利用者に対する態度に気をつけておりプライバシーを損ねない配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方出来ない方に関係なく出来るだけ平等に要望に応じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重して出来るだけ個別ある支援をしています。 自室で休んだり散歩等の一人ひとりの思いに配慮しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用の方にホームまで来て頂きカットを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑で取ってきた野菜を食材で使用し利用者様と職員と会話をしながら楽しく食事をしています。 当日のメニューをボードに書いて頂いています。	メニューは利用者の好みも取り入れ、2日に1回買物に行っている。利用者と食材を仕分けしたり、行事食も取り入れ楽しく会話をしながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量を主、副に分けて十割で記入しています。 水分摂取量も表に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に移動できる方は誘導し口腔ケアを行っています。 週に一度、義歯洗浄、歯ブラシを消毒に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握しなるべく失敗が減少する様になっています。 以前紙パンツ使用の方も日中は布パンツ使用になっています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツの利用者も定期的にトイレに連れて行っている。夜間は2時間ごとに見守り、利用者が起きたときにはトイレに同行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き、自然な排便が出来る様に働きかけていますが二日排便がない方は下剤を服用して頂いていいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂いています。入浴が出来ない方は足浴をしています。入浴を嫌がる利用者様は無理に介助せず時間をずらし入浴を行っています。	1日おきに入浴をしているが、失禁した場合はその都度入浴している。入浴を嫌がる利用者には不安と怖さを取り除くようなさりげない言葉かけで入浴に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は庭に出たり散歩に出かけたり身体を動かして頂き生活のリズムを整える様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の用紙を一人ひとりの経過表に挟み職員が把握出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担を決め仕事をしたという充実感を味わえる様に配慮しています。 (掃除、ベットメイキング、洗濯干しなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩などの外出の機会を設け家族にも積極的に外食、外出などの時間を設けて頂いています。	夏は夕方5時ぐらいまで、冬は昼3時ぐらいまでに神社、公園、花見などの散歩をしている。月に1回家族と外食に行ったり、美術館に行くこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り希望に応じて家族が渡されたお金を所持して買い物などを行っています。 (ジュースなど)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があればその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節にあった飾り付けや利用者様の手作りの作品を展示しています。	玄関には12月らしく大きなクリスマスツリーが飾られ、華やかな雰囲気になっている。浴室は冬は脱衣所に温風ヒーターが設置され、他の部屋との温度差を少なくしている。居間はゆったりとした空間であり明るく清潔で寛げる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人が使い慣れた物を持参して頂いています。 (自室にキーボードなど)	利用者が自分で手作りした趣味の物や家族の写真が飾ってあり、色彩豊かな個性的な居室が多い。衣類などもきちんと整頓されており、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手すりを設置しています。 トイレの目印が貼ってあります。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372100731
事業所名	グループホーム 葵

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） ホームの行事の夏祭りやクリスマス会には、子ども会やその父兄の参加が多くなり年々盛況になってきている。7月にはホーム主催で地震体験講習会を消防署と地域の人の参加のもと行ない、地震体験車で震度別の疑似体験を経験した。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 2ヶ月ごとに年6回開催されている。地域の総代や民生委員の参加により地域との情報交換ができています。また、民生委員より今後、町内の行事予定の中にホームの行事も組み入れてもらえるよう提案があった。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 介護保険制度や介護の件でわからないことがあれば、市の担当者に相談に乗ってもらったり助言をもらっている。また、市主催の連絡会や研修会へ積極的に参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 今年度よりブログを立ち上げ、利用者の日々の暮らしぶりを掲載し、家族がいつでも見えるように配慮している。家族からのコメントを書き入れることもできる。市の介護相談員が毎月来訪して、利用者と会話をして要望などあれば情報を共有して改善に努めている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。